

マイコン・ワープロの利用研究

杉山光男 松井一幸 高須照夫 柳田嘉久
富田 昇 齊藤真子 高木 徹 宮田 学

[I] これまでの歩み

我々のグループは、教育工学的機器を学校の場でどう活用してゆくかの実践的研究を長年にわたって行ってきた。その歴史を年度毎に簡単に振り返ると次のようになる。

昭和45年

本校にレスポンスアナライザー (RA) を主とする教育機器を設置。

昭和46年

教育工学研究グループ発足。

○数学、化学の授業で (RA) の利用を研究。

昭和47年

(RA) をミニコン連動による振り分け機能を有する半自動化システムにする。

○生物の授業で半自動化システムの利用を研究。

○電算機利用の数学教材を研究。

○成績処理へのミニコンの利用を研究。

昭和48年

半自動化を全自動化にする。

○数学、化学、生物の授業で、全自動システムの利用を研究。

○成績処理にミニコンを利用。

昭和49年

○数学、化学、生物の授業で、全自動システムの利用を研究。

昭和51年

○全自動システム利用の授業についての結果の評価の研究。

昭和52年

教育工学研究グループをTMグループと改名する。

昭和56年

マイコン (MZ80B) システムを導入。

富田 昇・松井一幸

○成績処理および進路指導関係資料の作成にマイコンを利用。以後定着する。

昭和57年

マイコン (MZ2000) の導入。

昭和58年

マイコンの利用研究グループと改名。

○物理、数学、必修クラブの授業でマイコンの活用の研究。

昭和59年

ワード・プロセッサの導入。

○学校事務へのワープロの利用開始。

CP/Mシステムの開発。

○物理教育への応用。

昭和60年

マイコン・ワープロの利用研究グループと改名。

○マイコン・ワープロの教育、事務への本格的利用研究開始。

以上のような経過で現在に至っている。それぞれの年度のより詳しい内容については、本校紀要に発表されている文献を参考にして欲しい。

我々のグループは何度も改名して現在に至っているが、これは研究メンバーが変化していることを意味するものではない。教育工学機器が日進月歩の素晴らしい発展を遂げているため、自然に名称が変化しただけのことである。

本校において、教育に、学校事務に、研究に、マイコン・ワープロは盛んに活用され始めた。今後いろいろなことに利用、活用してゆきたい。